

『暮らりのなかの食』そのいきさつ

松田泰俊

(一)木曾路のおばさんと唐木順三先生

「土を耕し、肥料をほどこし、種をまいて、それを大切に育て、みのらせ、とり入れる。そのとり入れたものでみづからを養ひ、来年の種を残す。さういふ生き方が人間として上等な生き方だと思ってるのである。四季のうつりかはりに順應して、天候風雨を氣づかひ、雑草をのぞき、病蟲害をのぞき、氣をくばって育ててゆく。いまのところでは、風水害はなほ人力を越えた自然の猛威だから、天に祈り、地に伏して泣くことも起こる。さういふさまざまな経過をたどって生きてゆく生き方、働き方が「文化」といふものだ、さう思ってるのである。」
唐木順三著「飛花集―言語と教諭より―

*日本の新教育運動のリーダーの一人であった小原國芳は「農は国の根本也」と云。

*「暮らりのなかの食」中心講師であった内山節先生は「人間が根本的なものを考えると農業につながる」と説かれた。(平成二十七年七月九日の指導のなかで)

(二)給食施設の老朽化のなかで

昭和二十五年(七十一年前)伊那小学校に給食室が完成する。

昭和三十七年(五十九年前)長谷中学校に県下初のランチルームができ給食室が完成する。

各学校にあっても給食室が設置され、その後改修を重ねてきているが、平成二十年頃に入り(十三年前)改修では間に合わず新築を余儀無くされる時期を迎えた。

市内には小学校十五校、中学校六校と学校数も多く、新築には大きな予算が必要となる。財政が厳しいなかで、自校給食からセンター化の方針が打ち出された。

各学校又護者からは自校給食の継続を願う意見が多く寄せられた。

『何故自校給食なのか』

- ・調理しているところが身近に見られるから。
- ・給食調理室から漂う美味しい味を感じられるから。

(三)平成二十五年六月、「給食センター化」か「自校給食」かの議論を離れ、「あるべき給食の姿」に立ち戻って考えていくことになり「伊那市学校給食あり方懇談会」が設置された。

【懇談会のメンバー】

KOA株式会社取締役会長

向山孝一

お茶の水女子大学講師 前大和幼稚園園長・元駒場幼稚園園長

向山陽子

伊那中央病院小児科部長

藪原明彦

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター長

山本祐一

伊那市立図書館長

平賀研也

伊那市教育委員長

松田泰俊

⑥「暮らしのなかの食」その教育的意義

- ①ふるさと伊那の理解の深まりを、農業体験を通して体得する『窓』をもつ。
- ②次々と過ぎ去っていく学びでなく、『循環(円相)の暮らし』の体得。
- ③『命』を繋ぐ食料の生産体験により、食材を大切にし、『生かされている自分の自覚』を育む。
- ④農業は総合的な営み。教科内容がふんだんに期待でき、多面的、多角的思考を育むことが期待できる。

⑤教育の根っこ『面受と愛語』の体得。

「りっぱな野菜ができたね。」「給食の先生、給食おいしかったよ。」

・相承は、子供と教師が親しく接して学び学ぶことによる。

・愛語よく廻天のちからあることを学すべきなり、ただ能を賞するのみにあらず。(正法藏より)

(七)篤農家は語る

- ①「ただくありがたさを感じる」 (命をいただく、生かされている自覚)
- ②「自分で育てたものだから安心だ」 (総合的体験によって全てが見える)
- ③「うんと新鮮だ」 (野菜本来の味、本物の体感)
- ④「日光や雨のありがたさを感じる」 (お天道様の自覚)
- ⑤「楽しい」 (「悟」の世界、生きる張り)

*内山 節先生の『清浄なる精神』より

「・・・表現する言葉を紡ぎだしたすぐれた思想家、仏教者は存在する。たとえばそれは古くは空海であったり、その後の法然、親鸞、さらには道元であったりする。だが彼らは新しい思想の創造者というより、民衆が生みだそうとしていた思想の表現者だととらえたほうがいいと私は思っている。」(『清浄なる精神』三十一頁)

(八)おわりに

今、コロナ禍を体験するにあって「自然と人間」のありようが一層問われている。

この問いに応えていく一つの道筋が、「土地を耕し、種を蒔き、食材を生産し、食していく農業活動体験」にあるように思われる。

「暮らしのなかの食」は、新しいひとつの教育を拓く実践として七年前(平成二十六年)モデル校による実践から歩みを始めた。伊那市の特色ある教育実践として一層の充実が図られることが期待される。

【学校給食全体計画例 低学年用】

伊那市の学校給食は、子どもたちが“暮らしのなかの食”を核として伊那谷の自然とくらしの“循環”を毎日の保育園・学校で実感し、学ぶことを目指しています。

子どもたちが暮らすこの伊那市は、豊かな自然環境とそのなかで農家の皆さんの熱心な働きによって農産物（食材）が生産されています。また、多くの市民の皆さんは、自家用に食材を生産するという暮らしが営まれています。

この豊かな自然環境のなかでの循環型の農業を大切にしたい伊那市の人々の暮らしに学びながら、子どもたち自らも食材の生産に取り組むことなどを通して、“暮らしのなかの食”を総合的な営みとして学び、『食育』の根底になければならない『食事をいただく』という自覚、また、『もったいない』という価値観の育ちを期待すると共に、故郷伊那市への理解を深め、故郷への愛着のおもいを育むことを期待しています。

活動の芽	循環	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
給食の食材調べをしよう 自分たちでも作れそうな野菜をそだて 調理したり給食に使って もらおう	そだてる 採る 収穫する	野菜畑の準備をしよう ・土を柔らかくし肥料をいれる ・畝を立てること		畑で野菜を育てよう ・種を蒔く ・種と苗の違い ・苗を植える ・種の違い			野菜の世話 ・草取り ・水やり ・間引き ・芽かき		育てた野菜を収穫しよう ・野菜を傷つけない収穫 ・だいこん・ジャガイモ・サツマイモ カボチャなどの保存				
	調理する	つくしやよもぎの料理を作っていたごう ・つくしのおしたし ・よもぎだんご			弁当給食① ・弁当作りのお手伝い			夏野菜を使った給食 ・自分達が育てた食材による給食		弁当給食② ・弁当作りのお手伝い			
	いただく	お花見給食をしよう ・兄弟学級でいただこう		端午の節句のごちそう ・柏餅をいただこう		お月見のごちそう ・お月見だんごをいただこう		お正月のごちそう ・お汁粉をいただこう		お別れ給食をしよう ・兄弟学級でいただこう			
	地域、家庭 とつながる	農家の畑を見学したり 野菜作りを教えていただこう ・農家の畑のようす・働く農家の人のようす			お世話になった農家の皆さんを招待しよう ・自分達が育てた食材による食事会						お家の人を給食に招待しよう ・収穫したジャガイモを使った カレイライス給食		
教科内容等 との関連	(国語) 順序立てて話す 集中して聞く (算数) 数を十を単位で読取 加法減法の計算 (生活) 地域のよさ 働く人々への愛着 (図工) 感じたこと思ったことを 絵や立体に表す (道徳) 約束や決まりを守る			(国語) 事柄の順序を考えながら書く (算数) 数量や関係を表やグラフに表す (生活) 身近かな人々との交流が進んでできる 植物の変化や成長に関心をもち 大切にする (道徳) 働くことのよさを感じ みんなのために働く			(国語) 経験したことや想像したことなどから核ことを決め事柄 の順序に沿って構成を考え、つながりのある文章を書く (算数) 長さの単位と測定 (生活) 自分自身の成長を振り返る (道徳) 日頃お世話になっている人に感謝する *教科等との関連は、具体的な計画立案に当たって学習指導 要領、教科書等を参照し、できるだけ細部に互って計画案に 記しておくことが学習指導上大切になる。						

年間の活動を振り返り 心に残ったことを文章にまとめる
また来年への期待を記し発表し 来年へ見通しを持つ

【学校給食全体計画例 中学年用】

伊那市の学校給食は、子どもたちが“暮らしのなかの食”を核として伊那谷の自然とくらしの“循環”を毎日の保育園・学校で実感し、学ぶことを目指しています。

子どもたちが暮らすこの伊那市は、豊かな自然環境とそのなかで農家の皆さんの熱心な働きによって農産物（食材）が生産されています。また、多くの市民の皆さんは、自家用に食材を生産するという暮らしが営まれています。

この豊かな自然環境のなかでの循環型の農業を大切に伊那市の人々の暮らしに学びながら、子どもたち自らも食材の生産に取り組むことなどを通して、“暮らしのなかの食”を総合的な営みとして学び、『食育』の根底にしなければならない『食事をいただく』という自覚、また、『もったいない』という価値観の育ちを期待すると共に、故郷伊那市への理解を深め、故郷への愛着のおもいを育むことを期待しています。

活動の芽	循環	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
伊那市の農産物調べをしよう 自分たちでも作れそうな農作物を育て 調理したり給食に使ってもらおう	そだてる 採る 収穫する	伊那市の農産物調べをしよう ・農協を訪問しての聞き取り ・農産物の特徴		アマランサスの栽培をしよう ・アマランサス生産者にアマランサスについて学ぶ ・畑探し ・畑の準備 ・種の様子 ・種蒔き ・発芽 ・間引き ・除草 ・施肥管理 ・虫、鳥よけ対策			アマランサスの収穫をしよう ・刈り取り ・乾燥 ・脱穀						
	調理する				間引きのアマランサスを給食に使ってもらおう ・アマランサスの葉を食材に使ってもらおう		アマランサスを使って調理しよう ・アマランサスのクッキー		アマランサスを使って調理しよう ・アマランサスのクッキー		アマランサスを給食に使ってもらおう ・収穫したアマランサスの給食		
	いただく	お花見給食をしよう ・兄弟学級でいただく		弁当給食① ・弁当作りのお手伝い 端午の節句のごちそう ・柏餅をいただく		お月見のごちそう ・お月見だんごをいただく		お正月のごちそう ・お汁粉をいただく		お別れ給食をしよう ・兄弟学級でいただく			
	地域、家庭 とつながる	農家の畑を見学したりアマランサスの作り方を教えてもらおう ・農家の畑のようす・働く農家の人のようす ・アマランサスについて学ぶ			お家の人と一緒に畑仕事をしよう ・畑の草取りの共同作業			お家の人にアマランサスのクッキーをごちそうしよう ・収穫したアマランサスのクッキー作り		お世話になった農家の皆さんを招待しよう ・アマランサスの給食を食べていただく			
教科内容等 との関連	(国語) ・相手や目的に応じて適切に書くこと ・書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること ・文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりすること (算数) ・重さの概念 g、kg、1kg=1000g ・一万をこえる数 (社会) ・地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること ・地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特徴及び国内の他地域などのかかわり (道徳) ・勤労：働く喜び ・自立節度：自分の考えで行動 ・尊敬・感謝：感謝の気持ち ・自然愛護・動植物愛護：身近な自然の再発見												

年間の活動
振り返り心に残ったことを文章にまとめ
また来年への期待を記し発表し
来年へ見しを持つ

【学校給食全体計画例 高学年用】

伊那市の学校給食は、子どもたちが“暮らしのなかの食”を核として伊那谷の自然とくらしの“循環”を毎日の保育園・学校で実感し、学ぶことを目指しています。

子どもたちが暮らすこの伊那市は、豊かな自然環境とそのなかで農家の皆さんの熱心な働きによって農産物（食材）が生産されています。また、多くの市民の皆さんは、自家用に食材を生産するという暮らしが営まれています。

この豊かな自然環境のなかでの循環型の農業を大切に伊那市の人々の暮らしに学びながら、子どもたち自らも食材の生産に取り組むことなどを通して、“暮らしのなかの食”を総合的な営みとして学び、『食育』の根底になければならない『食事をいただく』という自覚、また、『もったいない』という価値観の育ちを期待すると共に、故郷伊那市への理解を深め、故郷への愛着のおもいを育むことを期待しています。

活動の芽	循環	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稲作農家に学びながら米作りをし 収穫した米を使って 調理したり給食に使ってもらおう	そだてる 採る 収穫する	田んぼの準備をし、苗を育てよう ・農家との交渉により休耕田活用 ・保温折衷苗代作り ・代かき 畔づくり 畔塗り ・線引き 田植え		田んぼの世話を続けよう ・水番・中干し・間断灌水・落水 ・田の草取り 畔草刈り ・病気の心配 ・天候の心配			米の収穫をしよう ・稲刈り ・はさかけ ・精米 ・お礼肥 田起こし						
	調理する	弁当給食① ・自らの手作りによる弁当						新米を味わおう ・新米を炊飯し味わう		収穫した米を給食に使ってもらおう ・米飯給食の食材に活用			
	いただく	お花見給食をしよう ・兄弟学級でいただく		端午の節句のごちそう ・柏餅をいただく		お月見のごちそう ・お月見だんごをいただく		お正月のごちそう ・お汁粉をいただく		弁当給食② ・自らの手作りによる弁当		お別れ給食をしよう ・兄弟学級でいただく	
	地域、家庭 とつながる	農家の方から苗作りや米作りについて学ぶ ・田んぼのようす 苗作りのようす ・田んぼの世話のようす				お家の人と一緒に田んぼの仕事をしよう ・田の草取りや土手草刈りの共同作業				収穫を祝おう ・お家の人やお世話になった農家の方に新米をごちそうしよう			
教科内容等 との関連	(国語) ・話の組み立てを工夫しながら適切な言葉遣いで話す ・事象と感想、意見などと区別しながら書く ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする (算数) ・田んぼの面積 概形をとらえおよその面積などを求める ・お米の値段 単位量あたり (社会) ・農耕のはじまり ・伝兵衛井筋 ・西天竜用水 ・御子柴艶三郎 ・米づくりを中心とした日本の農業と課題 (理科) ・生き物と自然とのつながり ・生き物と養分 (道徳) ・勤労の貴さ・協力し合う良さ ・先人の努力を知り、郷土を愛する心を育む ・自然環境を大切にする ・協力し主体的に責任を果たす												

年間の活動を振り返り心に残ったことを文章にまとめ 次の学年に活動を引き継ぐ

【学校給食全体計画例 中学校用】

伊那市の学校給食は、子どもたちが“暮らしのなかの食”を核として伊那谷の自然とくらしの“循環”を毎日の保育園・学校で実感し、学ぶことを目指しています。
 子どもたちが暮らすこの伊那市は、豊かな自然環境とそのなかで農家の皆さんの熱心な働きによって農産物（食材）が生産されています。また、多くの市民の皆さんは、自家用に食材を生産するという暮らしが営まれています。
 この豊かな自然環境のなかでの循環型の農業を大切にしたい伊那市の人々の暮らしに学びながら、子どもたち自らも食材の生産に取り組むことなどを通して、“暮らしのなかの食”を総合的な営みとして学び、『食育』の根底にしなければならない『食事をいただく』という自覚、また、『もったいない』という価値観の育ちを期待すると共に、故郷伊那市への理解を深め、故郷への愛着のおもいを育むことを期待しています。

活動の芽	循環	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
一年生の総合的な学習の時間 学校給食の食材生産に取り組む 食材の種類をきく 根の物が好ましい	そだてる 採る 収穫する	野菜畑の準備 ・農家との交渉により 休耕田活用 ・野菜用土作り		野菜畑作業 ①大根春蒔き ②大根秋蒔き ③ジャガ芋春植付 ④人参春蒔き ⑤ゴボウ春蒔き ⑥サツマ芋春植付 ⑦カボチャ春蒔き ＊こうした作物のなかから選択して栽培する ＊畑作業は雑草との戦い					野菜の収穫 ・冬季にも生産食材が活用できるよう 農家の伝統的保存方法に学ぶ					
	調理する いただく			弁当給食① ・自らの手作りによる弁当				収穫野菜の活用 ・収穫した野菜を活用しての家庭科調理実習 ・給食食材に活用	弁当給食② ・自らの手作りによる弁当					
	地域、家庭 とつながる	農家との交流① ・休耕田借用 ・野菜作りを学ぶ		農家との交流② ・野菜農家畑の見学 ・食材提供農家の農作業支援 （職場体験学習）			農家との交流③ ・食材提供農家の収穫作業支援 （職場体験学習）		農家との交流④ ・お世話になった農家の方を招待し 収穫した野菜をつかったの食事会 （家庭科調理実習）					
	生徒会 給食委員会	食材提供農家との交流 ・地元食材提供農家訪問と 広報活動（通年）		献立コンクール 準備と募集 ・地元食材活用の献立			献立コンクール実施 ・献立コンクール結果の広報活動							
	栄養士(職) 給食室	食育講話 ・伊那市の給食の取組		献立コンクール支援 ・給食委員会への指導・助言		PTA給食試食会講話 ・伊那市の給食の取組		家庭科調理実習支援 ・家庭科教諭との連携・支援						
	給食室	各月の行事食 ・生徒が生産した食材の活用		・旬の食材活用		・地元食材活用								
	教科内容等 との関連	①1年生の総合的な学習 50時間をできるだけ食材生産活動に位置付ける。 ②技術・家庭科「日常食の調理と地域の食文化」の指導事項との関連を図る。												

年間の活動を振り返り 活動の記録を文章にして残り 次年度の学年に活動を引き継ぐ